

子どもたちが常に真ん中にある教育を目指して

校長 竹谷 浩一

お子さんのご入学、ご進級おめでとうございます。満開の桜のもと、1年生146名、転入児童9名を新たに迎え、児童数714名、教職員62名での出発です。ポストコロナと言われる新しい時代に、着任式を体育館で実施し、12名の転入職員を紹介しました。引き続き始業式も体育館で行い、2年生から6年生に向けて次のような話をしました。

一つ上の学年に進級しましたね。おめでとうございます。

クラスのメンバーが少し変わりました。新しい仲間も増えました。仲良くしてくださいね。これまでの間、ゆっくりと時間をかけて仲良くなった友だちとまた同じクラスになった人、離れてしまった人、担任の先生が変わった人、変わらなかった人がいますね。

去年の1学期始業式で、「学校は何をする所ですか？勉強するところ、友だちを作って楽しく話したり遊んだりするところ…。学校って忙しい所ですね。誰にでも得意な人と苦手なことがあります、大切なのは挑戦する勇氣です。」という話をしました。

芝川小学校は、皆さんの新たな挑戦を歓迎します。失敗を安心してできる学校を先生たちと一緒に目指していきましょう。「今日の自分が明日の自分をつくる。その積み重ねが人生となる。」そこで皆さんにお願いがあります…。

4月1日(月)の出勤日に、教職員に「①子どもたち、保護者、地域との対話を大切にしてください ②子どもたちを真ん中に置いた活動を展開してください ③楽しく、やりがいをもって仕事をしてください」と伝えました。また、本校での全教育活動の理念である学校経営方針について確認しました。

今年度も継続して指示や指導する時間をできるだけ減らし、子どもたちが自分の意志で学ぶ教育を目指します。授業参観等で、他から見ると放任だと思われるような場面も、子どもたちが真ん中にある活動を意図して展開しているのだと理解してください。

○本校の学校教育目標

「かしこく(知) ⇒主体的に学習する子
「たくましく(徳) ⇒正しく判断し、思いやりをもって行動する子
「ゆたかに(コミュニケーション) ⇒前向きに行動し、ねばり強く取り組む子

○今年度の重点目標

○目指す児童像



⇒「ひと」との関わりを大切に、豊かな人間関係を
「ひと」とのつながりを大切に生きる児童の育成(3年次)
(知)「なぜ」を感じとる、先を見通す、自分のゴールを決める
*自分で考え、自ら行動できる子ども
(徳)場をわきまえる、個と集団で自分を切り換える、人を大切にする
*当たり前のことを、当たり前に行動する子ども
(体)前向きな気持ちをもつ、自分が思ったことを試す、何か結果を出す
*健康な心と体をつくる子ども
(こ)あいさつと返事をする、「ひと」の気持ちがわかる、自分を大切にする
*対話を通して、人とつながる子ども

○目指す学校像

輝く笑顔 学ぶ意欲あふれる

⇒ 真の学力等の全人的な発達・成長を促す学習機会を保障
・「ひと」と安心・安全につながるができる場所



これから先行き不透明な時代を生きる子どもたちに必要な資質は、自分で考え行動する力とICTを使いこなす力が最有力だと考えます。「かわいい子には旅をさせよ」とはよく言ったものです。子どもがかわいいなら、甘やかさないで、世の中のつらさを経験させた方がよいと私も思います。学校においてこうした経験を数多く取り入れていくのが私の理想です。賛同していただければ幸いです。

校長のつぶやき(本企画3年目に突入)

3月22日(金)の本校第50回卒業証書授与式。外は肌寒く、体育館内はひんやり。桜は完全に蕾の状態。3月に入ってからの寒の戻りで桜前線が失速しました。言うまでもなく学校行事の大敵は天候(極端な暑さや寒さ、強風、雨雪)です。満開の桜はおまけ程度と前向きに捉えるとして、天候は全く問題なく、素晴らしい卒業式となる準備は整った感じでした。

いよいよ「卒業生入場!」の合図で、担任が先導し卒業生が次々と入場してきました。壇上からその様子を見守っていた私は、感無量です。校長は、約3カ月前から構想を練ってきた式辞を読み上げる時と一人ひとりに声を掛けながら証書授与を渡す時が緊張MAXです。何度も噛んだり、名前を読み間違えたりしたらえらいことです。でも、失敗なく卒業式を終えることができほっと一安心。式後の見送り式では、親子で照れ臭そうに手をつなぎ、希望を胸に芝川小学校を去っていきました。おめでとう!!

